

全国大学音楽教育学会 関西地区学会 Zoom ミーティング方式による研究会

～ with コロナ時代の音楽授業のあり方 ～

日 程：2020年8月29日（土） 14:00~16:00

場 所：リモート開催

参加人数：24名

1. 諸連絡（山岸）

- ①来年1月に開催する後期研究会の案内
- ②関西地区学会ホームページについて

以上、山岸会長より報告された

2. 本日の流れについて（山岸）

- ①本日のZoomミーティング方式による研究会は、中止となった本年夏の関西地区学会前期研究会に替わるものとして位置づけられる。
- ②本日参加の24名の会員に、所属している大学で行った遠隔授業などについて、一人2分程度でお話頂くこととする。5名終えるごとに、質疑応答の時間を設ける。

以上、山岸会長より説明された

3. 参加会員の発言内容一覧

- ①今のところ本学では、コロナ感染者がでていない。5月から全面的に遠隔授業を行い、6月の2週目より対面授業に切り替えた。新入生はゼミごとに、Wi-Fi関係の調達をした。遠隔授業は、Moodleを使用したり、郵送形式で行った。自分が担当している科目は、すべて授業形式である。感染症対策を行いながら、合唱・合奏では、マスク着用で授業を行った。
- ②前期はすべてオンライン授業となった。器楽の授業では、Zoom・Meet・LINEなどを使用した。後期から対面授業を実施する予定である。個人レッスン室の換気量を測定したことや、一人あたり18分のレッスンの場合、15分レッスン・3分手指消毒すること、また、キークリーナーによる鍵盤清掃など、大学自体が気を配っている。ピアノを持っていない学生のことを考慮して、前期にオンラインで歌唱指導を採り入れた。

- ③4月8日よりオンライン授業、6月1日より対面授業となった。遠隔授業では学内ツールとして、ユニヴァーサルパスポートを使用し、クラスプロファイルを使用した。器楽の授業では、バイエル全曲動画をソフトを使って作成し、YouTubeの限定動画として公開した。また、練習の記録としてポートフォリオを導入。6月からの対面授業においては、ソーシャルディスタンスを確保しながら指導した。表現の授業では、YouTube及び、教材プリントをPDF化し、ユニヴァーサルパスポートを通じて授業を行った。6月からの対面授業では、45分対面形式・45分オンデマンド形式のハイブリッド授業を展開、楽器を使う時は、ビニール袋を着用し、使用前後に手指消毒を行った。基礎音楽では、YouTubeを利用した。6月より対面となり、訪問演奏を行うことを予定していたが、不可能となったため、リモート演奏会を企画した。伴奏音源をあらかじめ作成し、演奏動画を作成した。後期は、グーグルクラスルームを使う予定。引き続き、ハイブリッド授業が必要と考えている。
- ④前期1回目はレポート課題とし、5月の連休明けから本格的なオンライン授業となった。イタリア歌曲を1曲歌っている動画を学生に作成してもらい、その振り返りをZoomで行った。6月15日以降に対面授業となったが、声楽については、7月から対面形式となった。最後に実技試験を実施したが、オンライン希望者はオンラインで実施した。
- ⑤4月は遠隔授業の準備、5月から本格的に遠隔授業が始まった。教育学部・医学部・農学部の実技系授業は、申請の上、6月から対面授業となった。使用ツールは、Zoomまたはスカイプで始まったが、Macとスカイプの相性が良くなかったため、Zoomを使用する教員が多くなった。会議はTeamsを使っている。遠隔授業を実施して良かった点は、Zoomアカウントを大学側が一括で取得してくれたことで、使用にあたり時間制限を気にする必要がなくなったこと、また著作権関係も、大学側がまとめて手続きをしてくれたことである。困った点は、CDやDVDを視聴する時に、いかに対面時のクオリティーに近づけることができるか、について苦労した。パソコンの横にマイクを置く方法が一番よかった。DVDもMoodleでは使用できないが、パソコンの横にスクリーンを置くなど古典的な手法をとることでカバーした。他に幼児音楽の授業における弾き歌いに苦労した。
- ⑥授業では、弾き歌いの授業をメインにしている。4月頃に課題曲を準備し、練習を行ない、5月の連休明けからLINEなどを使用して双方向型授業を行った。11人の先生方で1学年80人、計160人を担当している。楽器を持っていない学生の中には、大学の楽器を使うことができなかったものの、5月末までに大学から5万円の補助が出たため、キーボードを準備した学生がいた。楽器をもっている、朝から音を出すことができなかつたりと、音を出すことが環境的に難しい学生もいた。また通信環境の問題もあった。7月から大学で練習できるようになり、ピアノの先生方には、時間外で対応して頂いたこともあった。双方向型は最初は不安であったが、授業の前日に、学生が自分の演奏動画を録画して教員に送り、次の日に教員がチェックする方法をとることで、これまでになく、学生が弾けるようになっていた。実技試験は、学生が録画した動画を、Moodleのサイトを使って教員に送

り、教員は送られてきた動画を評価する方式をとった。音楽は、対面ができなかったため、20分ほどの動画を30本作って、YouTubeで流し、ユニバーサルパスポートを通じて返ってくる振り返りを評価した。後期は対面か遠隔か決めかねている状況である。鍵盤の消毒を、各大学はどのように実施しているのかお尋ねしたい。

(質疑応答)

※Moodleの良いところは？

ZoomのURLをMoodleに載せることで、安全性が高まる。事前にダウンロードしてほしい資料をMoodleに載せることができる。フィードバックという機能があり使いやすい。使いにくい点としては、授業前・授業終わりの時間帯にMoodleが混むことがある。

※LINEのアカウントは個人のものを使っているのか？

その通りである。非常勤の先生方はMoodleを使用するためのアカウントを大学が作った。LINEの他にも、Zoomやスカイプを使用している。

※鍵盤の消毒はどのようにしているのか？

- ・鍵盤は、布やクロスで拭いているが、基本は手指消毒を大切にしている。
- ・強酸性水で拭き取り後乾拭きをしている。練習室は、学生自身で、授業では教員が行っている。

※リモート演奏会を開催したいが、使用ソフトとしてパワーディレクターはどうか？

パワーディレクターの有料版は高いため、キネマスターの有料版を使用している。

⑦前期は、Meetを使用して遠隔授業を行った。学生は全員キーボードを持っていた。7月から対面となったが、遠隔授業明けの学生のピアノ技術は下がっていた。後期の実技は15回中12回は対面形式としてよい、となっている。大きめの教室と小さな教室をやりくりしながら、授業を行っている。換気をすれば、数十分のレッスンには耐えることができるものとする。

⑧音楽理論の授業を担当している。90分の授業を45分(理論)・45分(レッスン)に分けて行っている。理論の授業はWebClassシステムを利用し、そこに資料(テキストの補足説明)をアップして行った。7月頃より対面授業に切り替わった。「音程」などやや複雑な分野を教えることについては、対面授業の方がよい。このことも含めてWebClassシステムを利用した授業には限界があるものとする。

⑨ピアノの授業を担当している。前期は5月までZoomを使用した。Zoomが繋がらなくなった時は、LINEを使用した(個人アカウントで)。6月より対面となった。Zoomの時には良いなと思っていた学生も、対面になると印象が変わり、結局6月から再スタートするような感じとなった。後期はハイブリッド授業になる予定である。

⑩4月から遠隔方式で始まった。ポータルでアンケート機能を使用しながら授業を行った。Zoomも使用した。6月から対面となった。遠隔授業を経験して思ったことは、「質の保証」

が難しいということである。また、遠隔授業に必要な学生側の環境整備が難しいこともあった。大学からキーボードを貸し出したりしたが、キーボードの消毒に時間がかかった。

- ⑪前期はすべて Web 授業となり、対面方式はなかった。グーグルドライブを使って学生に毎週3曲動画を作成してもらい、送られてきた動画を教員が見て、メールで指導する形をとった。このスタイルを採用したことにより、学生のやる気が上がり、これまでになく上達した。実技試験も、学生が録画した動画を見て評価を行った。後期は対面方式となる。

(質疑応答)

なし

- ⑫「器楽」の授業を担当している。アイウォッシュを使用して手指消毒をした。楽器はノンアルコールシートで拭いた。動画を使って鍵盤ハーモニカについて説明をした。リコーダーについては使うことができなかった。
- ⑬6月より対面授業となった。音楽系教室をやりくりしながら授業を行った。鍵盤の清掃にはキッチンペーパーを使用して、乾拭きをしている。後期も引き続き、対面授業となる予定である。
- ⑭6月より対面授業。ピアノ指導は後期に行うこととし、前期はオルフなど世界の音楽教育を紹介する授業とし、理論的な内容として行った。クラウドを使って、学生が自分で調べたことを発表したり、LINE ノートに弾き歌いの動画をアップして、グループ内でお互いの演奏を視聴できるようにした。他に、5歳までの音楽的発達に関して説明した動画を YouTube で公開、授業を行った。
- ⑮前期はすべて遠隔授業。13回はオンライン方式・2回はオンデマンド方式であった。声楽の集団授業ができなかったため、ピアノ指導に入った。後期は Zoom による遠隔授業を基本とし、ハイブリッド方式になる予定。Zoom 使用においては、通信環境が難しい時もあったが、出席率がよかった。音源作成の面でもよかった。
- ⑯最初の3回は、ユニヴァーサルパスポート、クロスプロファイルを使用して課題を出した。4回目からは LINE で個人レッスンをを行った。6月中旬から対面となった。ML 教室にあるピアノを数台、学内の別の場所に移動して授業を行った。学生も教員もマスクとフェイスシールドを着用し、学生と教員は同じピアノを使用しないようにした。プリントも手渡しは無しとした。弾き歌いは、マスクを着けていると声がこもるため、歌う時だけ、フェイスシールドはするもののマスクは外した。出席率は良かった。学生にアンケートをとったところ、電車に乗って通うことが心配であるため、できればオンラインの方がよい、という意見がみられた。また、授業でスマートフォンを使用するため、スマートフォンを置く三脚をレンタルできないか、という意見もあった。

(質疑応答)

※フェイスシールドは大学が用意したのか？

大学が準備した。

※鍵盤ハーモニカを授業で使用したか？

前期、何回か鍵盤ハーモニカを使って授業を行った。ホースは学生が買うこととし、鍵盤ハーモニカは、各学生固定として使用した。

⑰5月よりオンライン授業。使用ツールとしてはLINEが一番使いやすかった。家で音を出すことができない学生のみ、申告制で大学において対面授業を行った。1回生対象の授業科目内において、弾き歌い分野は個人レッスンで非常勤の先生方に頼み、理論分野を担当した。理論では、資料をPDF化してアップ、ポータルを通じて学生とやりとりを行った。学生は音楽以外の教科の課題が多く、大変であった分、音楽関係の授業で気分を変えることができたのか、よく練習していた。7月より1教科につき、2回対面が許可された。教育法において最後の対面授業（実技試験）で弾き歌いとリコーダーを考えていたが、リコーダーはやめた。そのかわり、学生が自分のリコーダー演奏を録画したものを、試験時に持ってきて、教員と同時に見ることにより、指導を行うことができた。後期は全面的に対面を予定している。

⑱前期は全面的にオンラインで行い、使用ツールはZoomであった。ピアノも貸し出した。7月頃より教員も学生も遠隔授業に慣れてきた。合奏については、手作り楽器に置き換えるなど工夫をした。後期から対面となる予定。学生が録画したものを試験とする方法は良いと思う。今後は、合唱や合奏の授業を実施したいと考えている、そのため各先生方のご意見を参考にしたい。

⑲5月よりオンライン授業、7月より一部対面授業となった。声楽の実技は実施できなかった。使用ツールはZoomであった。声楽はZoomだとマンツーマンができる。伴奏はリアルタイム授業で生じる時間差を考慮しながら行った。Zoomでは、どうしても合唱をすることができなかった。外部の合唱団で指導しているが、フェイスシールドがダメで、マスクは良いという情報を聞いた。コロナ対策として、大学が考えていることと、小中高や外部が考えていることが異なっているように思う。本学ではフェイスシールドは大学が学生分用意することになっている。後期は対面の予定だが、できるだけ対面の回数を減らしてほしいと言われている。フェイスシールドとマスクを声楽の授業で着用することはどうなのか、お尋ねしたい。

⑳前期はすべてオンライン授業となった。演習系の授業では、Zoom・YouTube・office365などを組み合わせながら行った。課題回収は、ポータル機能やワンドライブを使用。90分の中で7名の学生のピアノレッスンは、すべてZoomを使った。ピアノ経験者はよく練習しているが、初心者の指導に苦勞した。言葉を使って教えることに限界があるということ非常勤の先生方も言っている。学習進度も普通の3分の2位である。リモートで行う場合、

初学者への対応が課題である。声楽もリモートで行ったが、「歌リレー」という2小節ごとにつなげていくといった方法も試みた。後期も原則オンライン形式だが、一部対面になるかもしれない。

- ⑳歌唱授業を担当している。前期15回すべてZoomを使用した。Zoomによる合唱は諦めた。Zoomの問題点はタイムラグがあるということ。音源については、manabaにアップした。1クラス20人の学生を指導しているが、1000を超えるアクセスがあった。集団の中で歌うことが苦手でも、一対一だと歌いやすい学生もいる。また、キーノートを使用して、Zoomと共有する形で授業を行ったが、スムーズにできた。後期は遠隔・対面の両形式に対応できる準備を求められている。
- ㉑基礎音楽を担当している。5月はYouTubeによる授業動画の配信。6月から対面授業となった。40人ほどの学生を2教室に分けて、教室を往来しながら授業を行った。対面授業では出席率がよかった。オンライン形式におけるペーパーテストについて、良い方法がないかお尋ねしたい。
- ㉒オンライン・オンデマンド方式で授業を行った。6月より対面となった。大学をかけたもっているが、ある大学では、登校する学生と登校しない学生（オンデマンド）のために、教員が2つの教室を往来することもあった。遠隔授業の問題点として、Zoomではタイムラグが発生すること、学生の動画提出が容量にの関係で重くなること、手元しか映っていない学生が本人かどうかわからないこと、などがあった。また、学生からは、自撮りが難しいという感想も聞かれた。後期授業は、今のところ、オンデマンド方式で行う予定である。
- ㉓前期は100%遠隔授業であった。履修学生の中で、楽器を持っていることがわかったクラスのみ、Meetを使用して、一人15分ほどの個人レッスンを行った。今週、集中講義（月～金まで一日3コマ）を実施した。ピアノの消毒には、キッチンペーパーに「掃除水」と呼んでいるものをかけて消毒している。後期は対面を予定している。

（質疑応答）

※声楽の授業におけるフェイスシールドとマスクの着用について。

- ・フェイスシールドは、学生に支給された。教室にパーテーションが置かれ、移動可能である。授業では、フェイスシールドを使い、10分ほどの歌唱指導の時には、マスクを外している。マスクとフェイスシールドを同時に使うことはなかった。お母さんコーラスの指導では、自分はフェイスシールドを使い、団員は10人位に分けて、歌う時はマスクを着け、お互いの距離をとりながら教えている。また換気は常時行っている。
- ・フェイスシールドは、自分の声はよく聞こえるが、人の声が聞きにくい。名古屋二期会では、口元が見えて、息もしやすいマスクを使っている。

（記録：永井）